

第9回植物の嫌気応答に関する国際会議のご報告

阿 部 淳

根研究会事務局

第9回植物の嫌気応答に関する国際会議には、根研究会が協賛団体として運営に協力しました。内容・プレゼンテーション共にレベルの高い講演が多く、特に日本から参加の若い研究者には、研究発表を聞いて感動するという貴重な体験をしてもらえたと思います。根研究会が共同企画した第5セッションは、事前に研究会の主催で懇親を兼ねたミーティングを開き、座長・講演者・共同研究者らと研究会役員の意思疎通を十分に諮った上で臨むことができました。特に海外からの講演者には、これを機会に当研究会の存在を知ってもらい、今後の研究会の活動に何らかの形で寄与して頂けることを期待しています。

財政面では、第5セッションの事前ミーティングに研究会から一部補助をただけで、当研究会の負担は小さなものです（招待講演者のArmstrong さん夫妻の旅費は組織委員会から一

部を出して不足分は本人負担、Daniel Gladish さんの招聘については共同研究者の仁木輝緒先生にご尽力頂きました）。しかし、小柳敦史会長が事務局長を務め、若手・中堅の会員が組織委員として実務を分担したり、当研究会の編集委員としてもご活躍頂いている伊藤治さんがOECDとの仲介役を、また、前副会長の高橋秀幸先生がAnnals of Botanyとの連絡役をして下さるなど、根研究会の多くの会員が運営に貢献しています。こうした人的貢献と、国際会議運営のノウハウの提供という点で、実質的な寄与ができました。

これを機会に、国内で植物の嫌気応答に関する研究交流の場を設けようという話も出ているようですので、共同企画などの機会があれば、根研究会としても積極的に検討していきたいと考えています。



開会式でOECDの共催について説明するJIRCASの伊藤治さん。